

インスタ映え抜群!! クリスマスに「パエリア」人気上昇中 インテージ、「クリスマスの食卓トレンド」を公開 関東で「にぎり寿司」が10位、関西で「ポテトサラダ」が3位など地域差も

株式会社インテージ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:石塚純晃、以下:インテージ)は、独自に保有するデータ、および自主企画調査から、クリスマス期間中に食卓に登場するメニューの実態を分析しましたので、その結果をご紹介します。

2017年流行語大賞にもなった“インスタ映え”。昨今、SNS上は食に関するインパクトのある写真投稿であふれ、そうした投稿がきっかけとなり数々の食トレンドが生まれる状況となっています。今年のクリスマスはいつもとは少し違う、おしゃれで可愛い、そして美味しそうな料理を食卓に並べ、スマートフォン片手に撮影し、投稿して楽しもうなどと考えている方も多いのではないのでしょうか。

インテージは、1年365日を通じて食卓データを収集している「キッチンダイアリー」から、クリスマス期間中に食卓に並ぶメニューを抜粋し、クリスマスメニューのトレンドや東西の地域差など、実態を探りました。

[ポイント]

- ◆ クリスマス料理の定番、トップ3は「ケーキ」「ローストチキン」「フライドチキン」
- ◆ 関東では10位に「にぎり寿司」、関西では3位に「ポテトサラダ」など、定番メニューに地域差
- ◆ “インスタ映え”抜群の「パエリア」がクリスマスの食卓で人気上昇中
- ◆ 2017年、今年のクリスマスディナーは、「24日(日)に予定」が4割
- ◆ 一方で、4割が「クリスマス期間中に特別な食事はしない」と回答



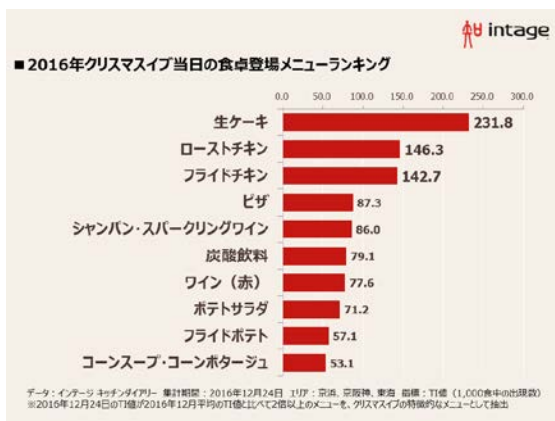
「ケーキ」「チキン」は外せない!? 昨年のクリスマスイブの食卓登場メニュー振り返り

クリスマスには、クリスマスらしい料理を、家族や友人、恋人などと一緒に楽しみたいもの。では、実際にクリスマスイブの夜、生活者のみなさんの家庭の食卓には、どのようなメニューが並んでいるのでしょうか。昨年のクリスマスイブ当日の食卓登場メニューのランキングを見てみました。なお、今回のランキングは「TI値（Table Indexの略。1000食卓当たりのメニューの出現数）」という指標に基づいて作成しています。

すると、全体ではクリスマスの食卓に欠かせない「生ケーキ」が断トツの1位。続いて、定番料理として知られる「ローストチキン」と「フライドチキン」がそれぞれ僅差で2位、3位にランクインしました。4位以降には、「シャンパン・スパークリングワイン」「炭酸飲料」「ワイン（赤）」といった食卓を彩る飲み物とともに、「ピザ」もランクインしています。

地域別に比較してみると、「生ケーキ」は関東、関西ともに1位ですが、関東では2位に「フライドチキン」、3位に「ローストチキン」の順で続いているのに対し、関西では2位に「ローストチキン」が入り、「フライドチキン」が4位と順位が入れ替わる結果になりました。また関東では、8位に「フライドポテト」（関西では20位）、10位に「にぎり寿司」（関西では30位）がランクインしているのに対し、関西では3位に「ポテトサラダ」（関東では9位）、6位に「コーンスープ・コーンポタージュ」（19位）が入るなど、地域差が見られました。

関東で10位にランクインした「にぎり寿司」。一般的に、古くから続く年中行事において、食卓に並ぶ料理は、その土地、その家庭の風習などが親から子へ継承されやすいと言われていています。「にぎり寿司」の発祥は江戸であるのに対し、関西エリアでは「押し寿司」「巻寿司」が古くからの伝統でした。こうした歴史が、今も好みや習慣の違いとなって食生活に表れているのか、興味深い結果です。



- ✓ 2016年のクリスマスイブに食卓に並んだメニュー、トップ3は「ケーキ」「ローストチキン」「フライドチキン」
- ✓ 関東では10位に「にぎり寿司」（関西では30位）がランクインするなど、メニューに地域差も

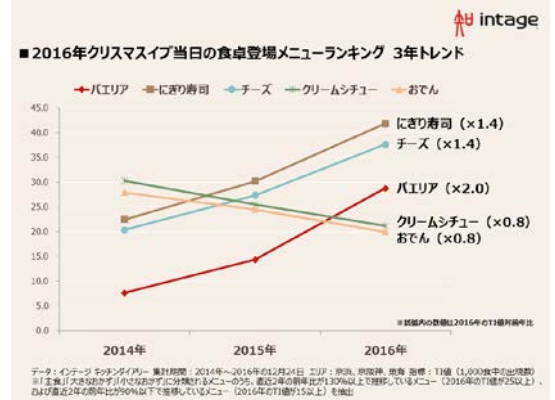
メニューのトレンド、直近3年ではインスタ映え抜群の「パエリア」が人気上昇中！

次に、2014～2016年のクリスマスイブを対象に、食卓に上がったメニューの登場率の変化を比較し、最近のトレンドを探ってみました。

登場率が増えたメニューを見てみると、「パエリア」「にぎり寿司」「チーズ」「チューハイ」が2年連続で上昇し、特に「パエリア」は、2014年から2015年で2倍、さらに2016年も2倍に増え、2016年時点においても食卓登場率は「ローストチキン」「フライドチキン」といった定番メニューに比べると1/5程度ながらも、クリスマスのメニューとして徐々に人気が高まっていることがわかりました。スペインを代表する料理で世界的にも人気のあるパエリアは、色鮮やかでカラフルな具材で作られ見た目にも華やかで、インスタ映えも抜群です。今年の流行語大賞にもなった「インスタ映え」。ここ最近では、フォトジェニックであるかどうかということが、物事を決定する上で重要な判断基準の一つとなっており、SNS上には目を惹く写真が賑わっています。中でも、盛り付け次第でオシャレにも見せることができる“食”は題材として人気。レシピサイトな

どでも、“クリスマス×パエリア”の情報が多く見られるようになってい
ます。インスタ映えする「パエリア」が上位に上がってきたのは、そんな昨
今の風潮を反映した結果といえるのかもしれませんが。

一方で、登場率が減ったメニューを見てみると、「クリームシチュー」
「おでん」などはここ3年では前年比80%程度となっています。



- ✓ クリスマスイブの食卓に並ぶメニューは、インスタ映え抜群の「パエリア」が人気上昇中
- ✓ 一方で「クリームシチュー」「おでん」はここ3年で食卓登場率が低下傾向に

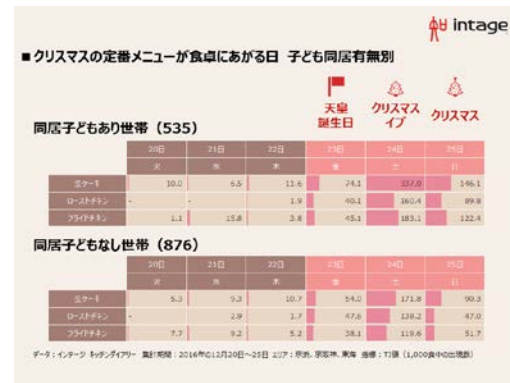
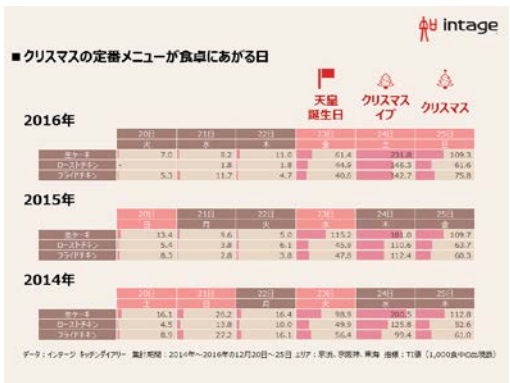
カレンダーに左右されるクリスマスの食卓。祝日の23日にフライングで食べる家庭も

ところでみなさんは、クリスマスの特別な食事は“いつ”食べるのでしょうか。できることならクリスマス伊ブやクリスマス
の当日に家族そろって食卓を囲んで楽しみたいと思いつながらも、平日と重なってしまう年もあり、なかなか難しいのも現
実ではないでしょうか。その実態を、2014～2016年のデータで振り返ってみました。

直近の2016年はクリスマス伊ブ、クリスマスが土日だったこともあり、クリスマスの食卓はクリスマス伊ブの24日（土）
に集中しました。また、クリスマス伊ブがピークだったものの、23日（木）の天皇誕生日にフライングしてクリスマスを楽し
んだ人も一定数いたようです（「ケーキ」の食卓登場率ベースでは、23日（金）にクリスマスを楽しんだ人は24日（土）の
1/4程度）。

2015年と2014年は、クリスマス伊ブ、クリスマスがいずれも平日だったため、2016年に比べると、前日のお休みに前
倒してクリスマスを楽しむ家庭が多かったことがわかります。また2014年には、ごく一部ですが、さらに前倒して前週末
の日曜日に「ケーキ」や「チキン」が食卓に並んだ家庭もあったようです。

また、同居子どもの有無という家族形態の違いからこの傾向を見てみると、「同居子どもあり」の家庭はクリスマス伊ブ
に集中し、「同居子どもなし」の家庭はクリスマス伊ブの前日や翌日に分散する傾向があることも明らかになりました。「サ
ンタがやって来る必要のある家庭」では、「クリスマス伊ブの当日に一連のイベントをやってあげたい」という親心がうかが
えます。一方、同居している子どもがいない家庭では、伊ブ当日にこだわらず、都合に合わせてディナーを楽しんでいる
ようです。



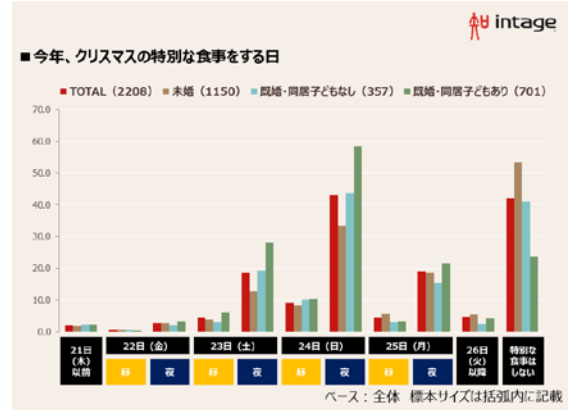
- ✓ クリスマスメニューを食べるタイミングはその年のカレンダーに左右され、クリスマス伊ブが平日にあたる年は前倒して休日にクリスマスを楽しむ人も多い
- ✓ 「同居子どもあり」の家庭は、「同居子どもなし」の家庭に比べて、クリスマスディナーが伊ブに集中

今年のクリスマス、「24日(日)の夕食」が4割で集中。一方で4割が「クリスマスの食事しない」

今年はクリスマスイブが日曜日、また景気が回復傾向との指標も報じられていることから、例年以上の盛り上がりが見込まれます。では、実際にみなさんはいつ、どのタイミングでクリスマスメニューを食べる予定なのでしょうか。全国の男女 2,208 人に、今年のクリスマス期間に「特別な食事」をする予定を聞いてみました。

すると、全体では、例年通り 24 日(日)の「クリスマスイブ当日の夕食」が 43.0%。次いで 25 日(月)の「クリスマス当日の夕食」(19.0%)と「23 日(土)の夕食」(18.7%)が並ぶ結果になりました。一方で、全体で約 4 割の人が「特別な食事はしない」と回答しています。

家族構成からその数字を詳しく見てみると、「クリスマスイブ当日の夕食」と回答した人の割合は既婚者あり層で約 6 割と高くなっています。一方で、未婚層では 53.2%と半数以上の人々が「特別な食事はしない」予定であることがわかりました。



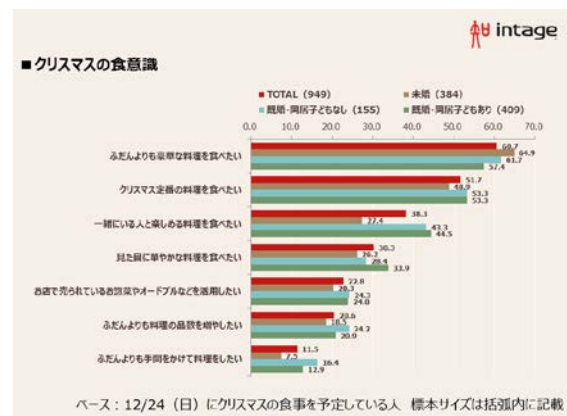
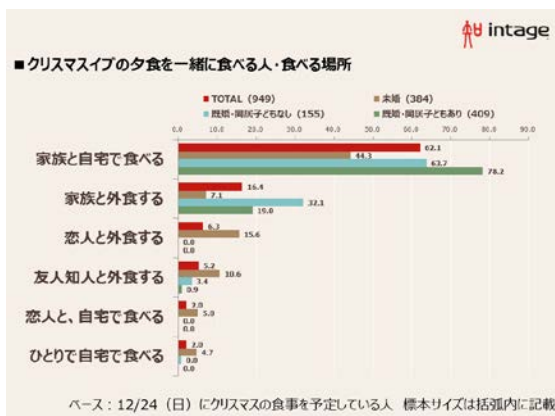
- ✓ 2017年、クリスマスの特別な食事は、「24日(日)の夕食」が4割。次いで「25日(月)の夕食」、「23日(金)の夕食」
- ✓ 一方で、「クリスマスの特別な食事はしない」と答えた人が全体では4割、未婚層では5割強

イブの夕食は「家族と自宅で」が6割。求めるのは「豪華」「定番」、でも「手間はかけたくない」

ではみなさん、「クリスマスイブ当日の夕食」は「誰と」「どこで」食べるのでしょうか。前項で、今年のクリスマスイブの夕食に特別な食事を予定していると回答した人を対象に、一緒に食べる相手と、食べる場所を聞いてみました。

全体では、「家族と自宅で食べる」が 62.1%と突出して高く、次いで「家族と外食する」が 16.4%と、イブの食事は自宅が多数のようです。こちらもライフステージ別に見てみると、既婚者なし層では「家族と外食する」が 32.1%で他層に比べて高くなっています。

最後に、クリスマスの食に関する意識を聞いてみたところ、全体では「ふだんよりも豪華な料理を食べたい」(60.7%)、「クリスマス定番の料理を食べたい」(51.7%)が高く、いずれも半数以上の人々が自分自身の考え方にあてはまるものとして選択しました。一方で、「ふだんより手間をかけて料理をしたい」は 11.5%と低く、豪華なもの、クリスマスの定番を食べたいけれど、できるだけ手間はかけたくない、というのがクリスマスの食卓への想いのようです。また、「一緒にいる人と楽しめる料理を食べたい」は、未婚層で 27.4%に対して既婚層では 4 割強と高く、料理そのものに加えて、「家族とともにクリスマスを楽しむ」というシーンも重要であることがわかります。



- ✓ イブの夕食を一緒に食べる相手、場所は「家族と自宅で食べる」が 62.1%で突出
- ✓ 「ふだんよりも豪華な料理を食べたい」(60.7%)、「クリスマス定番の料理を食べたい」(51.7%)に次いで、「一緒にいる人と楽しめる料理を食べたい」が 38.3%

10 日後にせまったクリスマス。“インスタ映え”が流行語大賞となった今年、SNS には色とりどりのクリスマスメニューがアップされ賑やかになることは間違いなさそうです。期間中に、SNS をのぞいてみたら「パエリア」以外の新たな食トレンド誕生も発見できるかもしれません。クリスマスのメニューがまだ決まっていないという人は、今回の調査結果も参考にしてみてもいいでしょうか。

※本レポートに使用した当社調査データについて

【キッチンダイアリー】 <https://www.intage.co.jp/service/platform/diary/>

京浜、京阪神、東海地区 1,260 世帯のパネルモニターによる食卓実態動向のトラッキングサービス。毎日の食卓で食材がどのように調理され、どんな家族に、どんなメニューで食べられているのかについてのデータ収集を継続的に行ない、京浜、京阪神、東海地区での食卓実態動向を明らかにしている。

【インテージのネットリサーチによる自主企画調査データ】

調査地域: 全国

対象者条件: 16-59 歳の男女

標本抽出方法: 弊社「マイティモニター」より抽出しアンケート配信

ウェイトバック: 性年代構成比を 2015 年度実施国勢調査結果にあわせてウェイトバック

標本サイズ: n=2,208

調査実施時期: 2017 年 11 月 10 日(金)~2017 年 11 月 15 日(水)

* * インテージのネットリサーチはマルチデバイス対応済み。PC でもスマホでも操作性がよく、回答傾向への影響を抑えています。* *

【株式会社インテージ】 <https://www.intage.co.jp/>

株式会社インテージ(本社: 東京都千代田区、代表取締役社長: 石塚 純晃)は、「Create Consumer-centric Values ~お客様企業のマーケティングに寄り添い、共に生活者の幸せを実現する」を事業ビジョンとして掲げ、様々な業界のお客様企業のマーケティングに寄り添うパートナーとして、ともに生活者の幸せに貢献することを目指します。生活者の暮らしや想いを理解するための情報基盤をもって、お客様企業が保有するデータをアクティベーション(活用価値を拡張)することで、生活者視点に立ったマーケティングの実現を支援してまいります。

【報道機関からのお問い合わせ先】

■株式会社インテージ 広報担当: 西澤(にしざわ) / 石渡(いしわた)

TEL: 03-5294-6000

サイト「お問い合わせフォーム」 <https://www.intage.co.jp/contact/>

【調査データに関するお問い合わせ】

■株式会社インテージ マーケティング部

担当: 久内(くない)

TEL: 03-5295-1562